

こども家庭庁「こどもデータ連携実証事業の検証に係る調査研究」

成果報告会資料

08_和泉市 |

Push型支援およびデータマートを用いたリスク児童の早期発見の実証

2024年3月

実証の背景・目的

▼自治体の概要

自治体名	和泉市（大阪府）	位置	参加関係者の体制、役割*			
人口	182,835人（2023年8月時点）		総括管理主体	保有・管理主体	分析主体	活用主体
担当部局名	和泉市子育て健康部子育て支援課		（市内） ・和泉市子育て支援室 ・和泉市政策企画室	（市内） ・和泉市健康づくり推進室、教育委員会、税務室、高齢介護室、障がい福祉課等	（市内） ・和泉市子育て支援室 ・和泉市政策企画室（庁外） ・アイネス、半熟仮想	（市内） ・和泉市子育て支援室、健康づくり推進室、教育委員会（SSW含む） （庁外） ・市立小中学校、保育園

*総括管理主体：各担当部局からのデータを組み合わせて判定ロジック等を用いて人によるアセスメントの補助となる判定を行う部局

*保有・管理主体：教育・保育・福祉・医療等のそれぞれの分野に関するデータを保有する担当部局

*分析主体：データを分析して総括管理主体が困難な状況にあることを把握するための判定アルゴリズム等を作成する者

*活用主体：データの提供を受け人によるアセスメントやプッシュ型（アウトリーチ型）の支援につなげる者

▼本事業の実施概要

背景、目的	<p>背景</p> <ul style="list-style-type: none"> 和泉市子育て健康部子育て支援室では行政サービスを必要としている市民に確実にサービスが届くよう努めてきたが、十分に届いていないのではないかとこの問題意識を抱いていた。 アウトリーチが十分にできていないという問題意識がある。 一般市民、特に課題を抱えている家庭にとっては、行政サービスへのアクセスはハードルが高く活用できていないと考えられる。 <p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> データを集約・分析し、支援を必要としているものの支援を受けていない児童を見つけてアウトリーチできる仕組みづくり。 プッシュ型で各人にカスタマイズされた情報を通知することで、必要な情報を直接必要としている人に伝え、行政サービスへのアクセスを容易にする。
対象とする困難の類型	貧困、児童虐待
本年度の実施成果	<ul style="list-style-type: none"> こどものリスク把握等に必要となるデータ（行政サービスの利用条件への該当是非と利用実態等）を集約のうえ、「データマート」として整備し、「児童虐待リスクの高い児童」の抽出および、「行政サービスの利用をプッシュすべき対象者」を抽出した。ただし、税情報利用については承諾が必要であり、データマートには実装されていない。LINEで同意を得たのちに取り込むことが想定されたが、手段の確立はされていない状況である。 システム上で児童虐待リスクが高いと判定された児童については、SSWを基軸に市内10校で人による絞り込み・支援を実施した。SSWのキャパシティを考慮した結果、新規に抽出された児童は少なく、過去に支援・見守りを行っていたこどものうち、改めて現時点で支援を要する児童を認識できるようになった。 児童扶養手当受給者へLINEからのプッシュ通知登録を促し、いくつかのサービスについてLINEプッシュ通知の試行を実施した。プッシュ型通知を送信することにより、活用率が低かったサービスの認知が向上した。

こどもデータ連携の仕組みの構築

- 主に子育て支援室が保有する情報を用いて、決定木分析で「不登校リスクスコア」を導出した。
- 「データ分析基盤（データマート）」はマイナンバー利用事務系NW上に構築した。適切なアクセス制御をかけることで、データマートの閲覧範囲を政策企画室、子育て支援室の両課室に限定させるようにした。

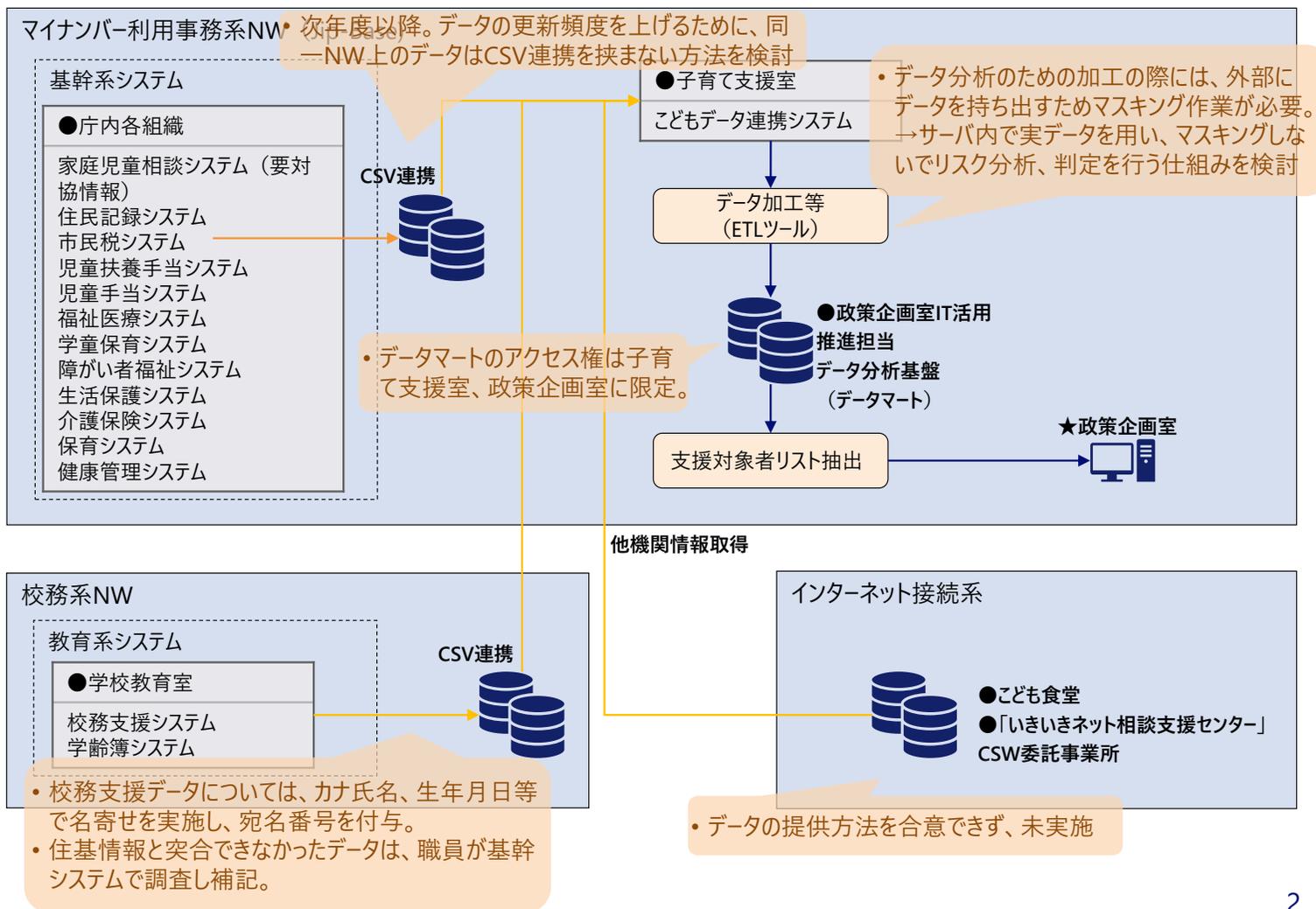
児童虐待の判定基準に用いたデータ項目

No	判定基準に用いたデータ項目
1	2021年以前の年度で、当時15歳以下の児童数
2	昨年、虐待を受けている
3	過去、家児相のケース区分＝虐待の履歴がある
4	生活保護を受けた延べ世帯人数が2以上
5	昨年、ひとり親医療を受給している
6	過去、虐待を受けている
7	過去、家児相のケース区分＝相談の履歴がある
8	4か月検診で総合判定＝要観察
9	世帯の3歳未満人数が1人以上
10	過去、こども医療を受給している

プッシュ通知の送信対象抽出に用いたデータ項目

No	判定基準に用いたデータ項目
1	LINE-ID
2	児童扶養手当の受給者証番号
3	住基の基本情報

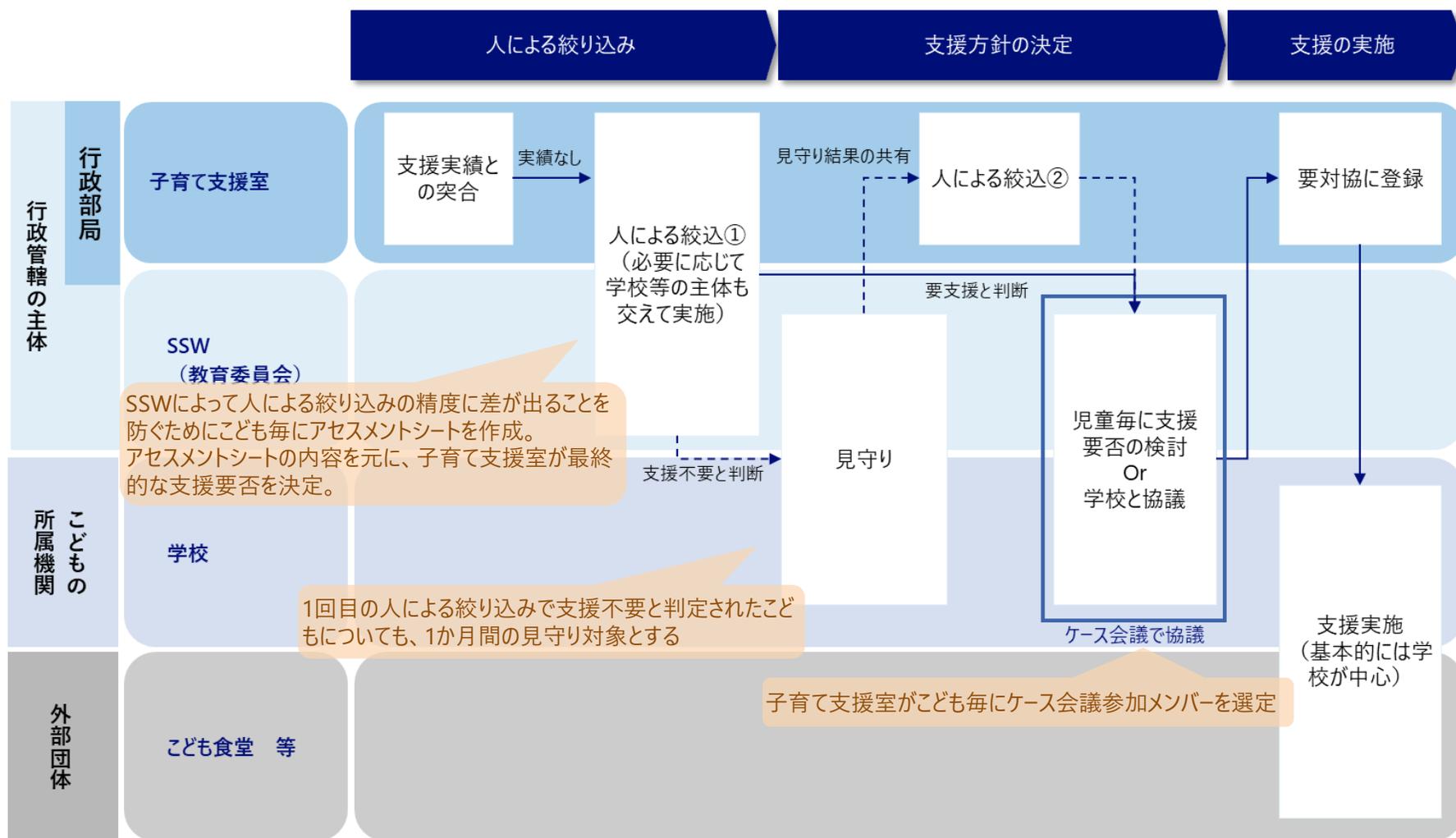
本年度実証に係るシステム構成



支援につなぐ取組

- SSWが籍を置く市内10校（中学校7校、義務教育学校2校、小学校1校）を対象に、人による絞り込みから支援までの流れを試行。今年度人による絞り込みを行った人数は134人。
- 人による絞り込みの対象となるこどもは、SSWがアセスメントシートを作成し、一律的な評価ができるよう工夫。アセスメントシートの内容を元に、子育て支援室において最終的な要支援判定を実施。

データ連携により把握したこども等を支援につなげる取組についての、本年度事業での実施フロー



結果（関連性のあるデータ項目、絞り込みの変遷）

- 決定木分析の結果、「児童虐待」は「昨年度の虐待の有無」と「過去の家児相への相談履歴の有無」*が関連性があると判定された。

- 今年度実証対象となる10校について、**決定木分析に基づき、「昨年、虐待を受けておらず」、「過去の家児相への相談履歴が有る」子どもを183名抽出**した。そのうち、直近で要対協に登録された49名を除いた134名を支援優先度が高いと判定した。その後、**SSWがアセスメントシートを作成し、支援要否を評価。その結果を元に、子育て支援室が最終的な支援要否を判断したところ、学齢期前の児童も併せ計37名については、支援の必要があると判断**された。

- 当該37名については、要対協のスキームで基本的に学校で対応することとした。

困難の類型（児童虐待）と関連性のあるデータ項目の分析結果

抽出群

- 人による絞り込みの結果要支援と判定されたことも
- 今年度支援対象となっていることも

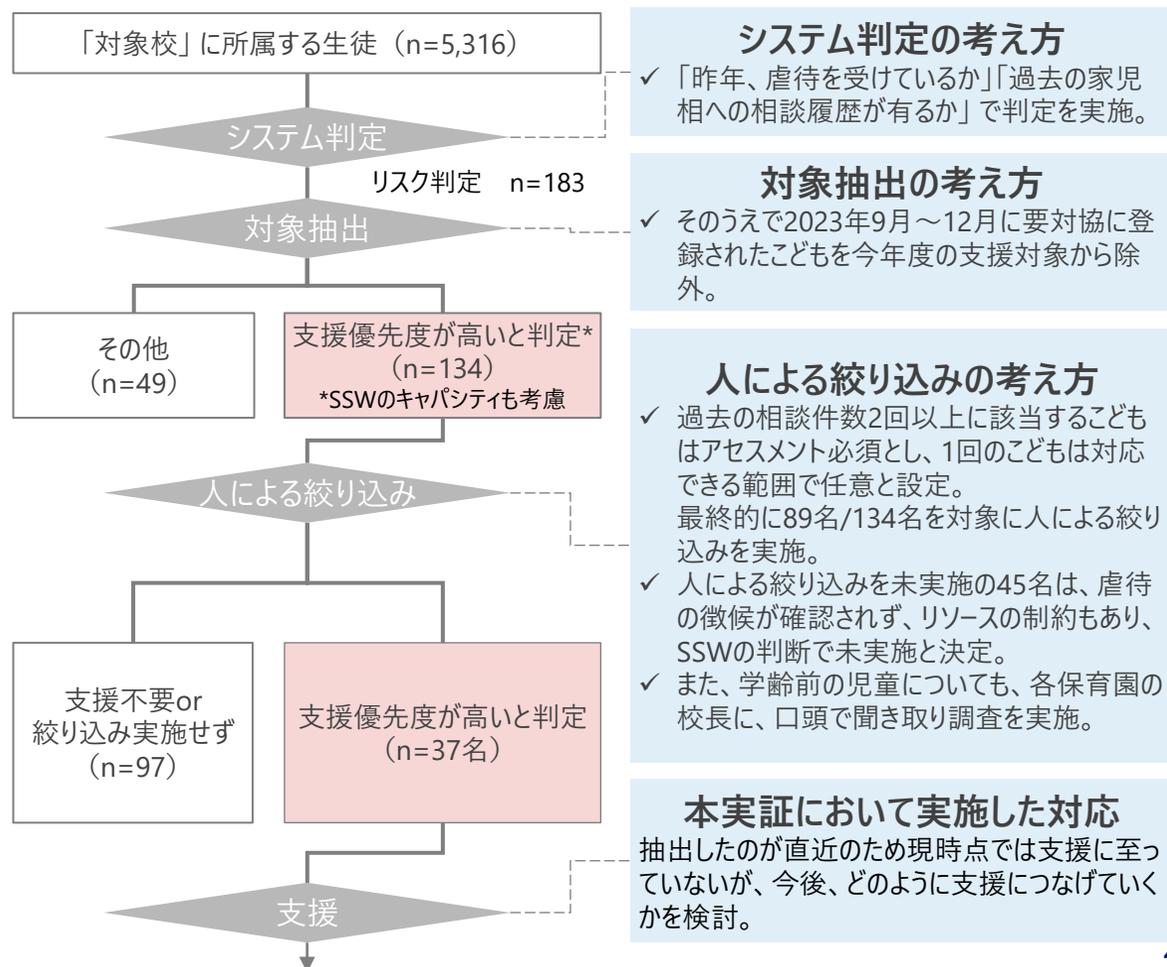
対照群

- 過去、家児相に虐待の相談をしたことがないことも

関連性のあるデータ項目	関連性が高いと判断した理由
セグメントID2 「昨年、虐待を受けている」	<ul style="list-style-type: none"> • 該当者1288名のうち、被虐待割合が52.4%であるため。
セグメントID4 「過去、家児相のケース区分＝虐待の履歴がある」	<ul style="list-style-type: none"> • 該当者3809名のうち、被虐待割合が13.2%であるため。

※他にも、関連性のあるデータ項目はあるものとするが、特に着目することが望ましいと考えるものを抜粋。

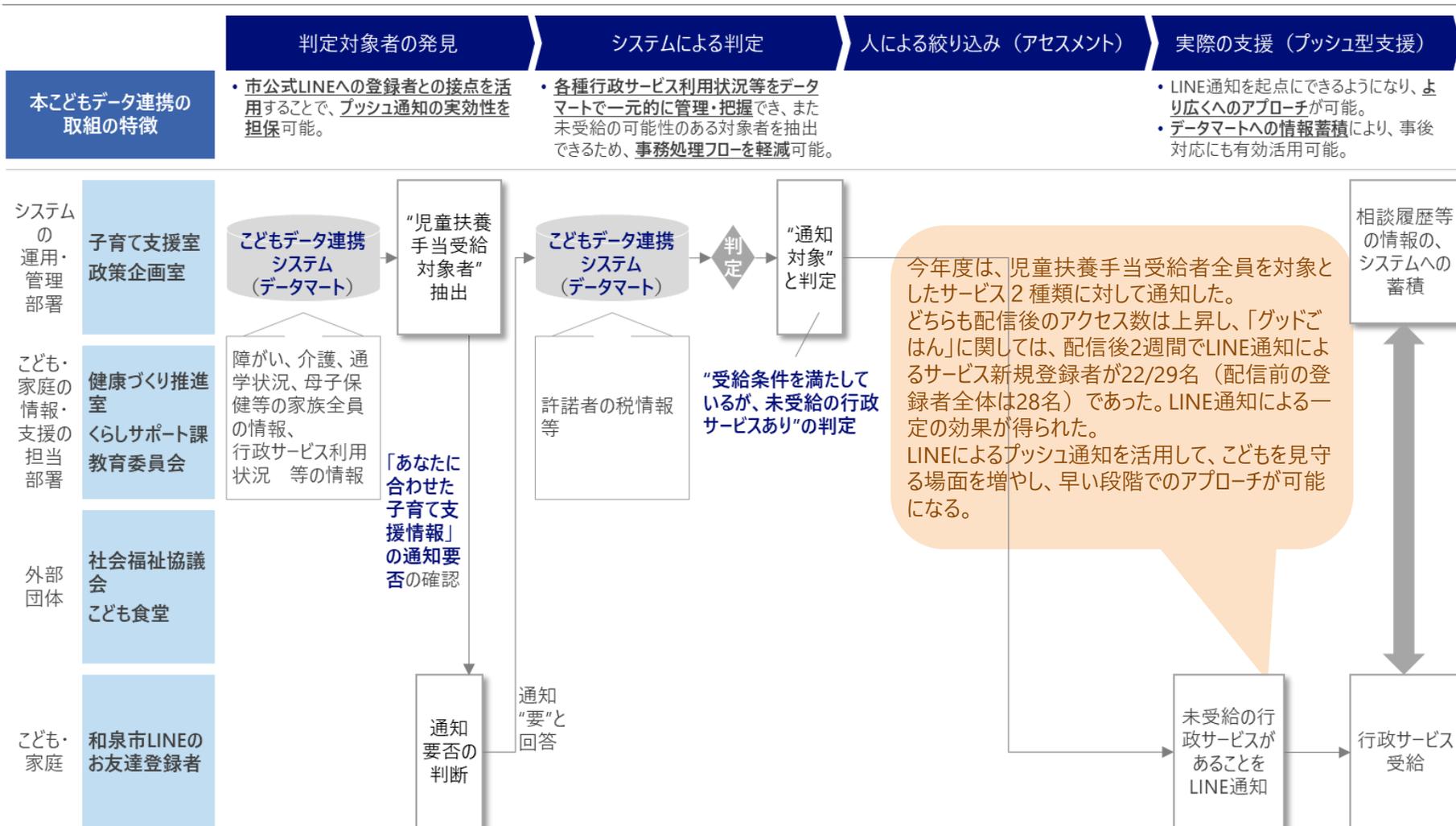
絞り込みの変遷



その他、工夫した点や得られた効果等

- データマートに搭載したデータを活用し、市が提供している行政サービスの対象者にLINEを活用して行政サービスについてプッシュ型で通知。

LINEを活用したプッシュ型通知の流れ



※承諾者分のみ税情報を取り込んだが、承諾者が少なかったため、今年度実証では活用していない。

考察・まとめ

(1) データ連携自動化のさらなる改善が必要。[技術面]

- 基幹系システムのデータ自動連携機能
- スクリーニング結果などのデータ蓄積による抽出条件精度の向上
- 支援に向けて市から適切に情報提供できる恒久的なシステムの確立
- 本実証でのデータ収集、リスク分析、評価のサイクルを検証しEBPMを実現
- 学校がもっている情報の活用

(2) さらなるアセスメント研修の実施・調整が重要。[運用面]

- データ活用を前提とした事務プロセス確立
- 人による絞り込みの判定基準統一化
- 学校でのスクリーニング結果のデータ活用
- SSWアセスメント結果のデータ活用
- 支援に係る人材と支援策の確保
- 外部組織からの情報共有における課題

(3) 個人情報保護法に配慮しつつも、支援活動の妨げにならない枠組みでの制度が必要と思料。[制度面]

- 要対協に登録しないと児童の情報が参照できない、また、気にしている児童であるが決定的な事象がないと支援できないというSSWからの意見があり、要対協になる前の情報管理・共有方法の整理、枠組みが必要

(参考) 人による絞り込みに活用するアセスメントシート

和泉市こどもデータ連携事業 再アセスメント票

学校名 _____ 学年 _____

氏名 _____

過去の虐待相談の回数	
------------	--

★現状で該当・気がかりの有無

諸費用	<input type="checkbox"/>
持ち物	<input type="checkbox"/>
服装・見たしなみ	<input type="checkbox"/>
学力	<input type="checkbox"/>
低身長・低体重・過体重	<input type="checkbox"/>
う歯・疾病	<input type="checkbox"/>
支援籍	<input type="checkbox"/>

★今年度1月末までの回数

遅刻・早退		日
欠席		日
ケガ		日
保健室来室		日
家庭連絡有無		日

SSWのアセスメント

SSW名: _____

虐待・貧困の課題: あり ・ なし
